

事務事業名	企画展事業	事務事業No.	573 - 2
-------	-------	---------	---------

1. 基本情報						
担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
教育部	文化課	文化財保護推進室	主査	樋口 嘉彦	課長	瀬尾 善忠
施策体系	総合計画	政策	5	教育・文化		
		施策	7	歴史的・文化的遺産の保護と活用		
		基本事業	3	教育・観光への活用の推進		
	その他の計画	個別計画	なし			
根拠法令・条例・要綱等	飯塚市歴史資料館条例第3条					
事業開始年度	昭和56年度	事業終了年度	継続	事務事業類型	ソフト事業	
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし	実施計画期間	なし	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）

概要	飯塚の歴史と文化に関する資料を展示紹介する企画展を開催して、市民に飯塚市の歴史や文化財について理解を深めることを目的とする。					
対象	働きかける相手・もの	飯塚市歴史資料館への市内外からの入館者				
手段	方法・働きかけ（活動指標）	企画展の開催、歴史資料館協議会の開催				
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	さまざまな分野を展示紹介する企画展を開催して、入館者の維持を図り、飯塚市の歴史や文化財について理解を深めてもらう。				

3. 活動指標（決算成果説明書と運動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
企画展の開催	回	企画展の開催数	4	4	4
歴史資料館協議会の開催	回	協議会の開催数	1	1	1

4. 成果指標（決算成果説明書と運動）

指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
入館者数	人	3,500	3,500	3,500	3,500
説明	方向性	達成目標年度	実績	5,230	4,643
	維持	毎年度			
指標	単位 <th>達成目標値</th> <th>前年度実績</th> <th>本年度実績</th> <th>次年度見込</th>	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
企画展開催中の入館者数1日平均入館者数の増加率	%	200	200	200	200
説明	方向性	達成目標年度	実績	248	201
	維持	毎年度			
指標	単位 <th>達成目標値</th> <th>前年度実績</th> <th>本年度実績</th> <th>次年度見込</th>	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
入館者の満足度	%	80	80	80	80
説明	方向性	達成目標年度	実績	75	71
	維持	毎年度			

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	-		
予算科目・事業	会計 1 一般会計	款 10 教育費	項 5 社会教育費	目 4 文化財保護費		
	大 4 歴史資料館管理運営事業費	中 2 企画展事業費	他 0 事業			
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績(千円)	本年度実績(千円)	増減理由(10%以上の場合)	次年度予算(千円)	
	正職員	0.39 人 3,046	0.40 人 3,179	人件費の増。 直接事業費の増。	0.30 人 2,384	
	任期付職員(保育士)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	任期付職員(CW・水質)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	再任用フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	再任用短	0.00 人 0	0.14 人 490		0.14 人 490	
	1級フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	1級パート	1.00 人 1,982	1.00 人 2,100		1.50 人 3,150	
	2級パート	0.50 人 1,328	0.50 人 1,373		0.00 人 0	
人件費計(A)		6,356	7,142			6,024
事業費	直接事業費(B)		1,211	1,384		1,414
	総事業費(A+B)		7,567	8,526		7,438
直接事業費のうち の主な歳出内訳	印刷製本費		399	398		409
	展示物運送等委託料		352	498		526
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)		0	0		0
	国・県支出金		0	0		0
	市債		0	0		0
	一般財源		7,567	8,526		7,438
	その他()					

6. 事務事業の事後評価★		
評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価	高い	市の文化財や資料の保存・活用を一体的に行うため、学芸員による企画が適当である。飯塚市の歴史・文化財について展示紹介することを目的とするため妥当である。広く一般に公開しているため、受益者の偏りはなく妥当である。
効率性 評価	高い	事業費の節減に努めており、更に節減する余地はない。適切な入館料を徴収している。
有効性 評価	高い	郷土の歴史や文化財を広く市民に公開した。教育普及事業はすぐにその効果が現れるわけではないため、長期間の継続性が必要。

7. 前年度評価時の計画と実績		
前年度評価★	前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策
一次評価	②コストは現状維持し、成果を拡充	市報、ホームページ、報道機関への広報活動を継続して実施する。
		次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入		
企画展について、市報、ホームページ、報道機関を通じて広報した。雛人形など新しい資料の収集、調査を行い、企画展で展示公開した。		

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★	
〔成果〕	企画展について、市報、ホームページ、報道機関を通じて広報した。雛人形など新しい資料の収集、調査を行い、企画展で展示公開した。
〔課題〕	新型コロナウイルス感染拡大の影響で落ち込んだ入館者数の回復を図る。

9. 今後の事業の方向性と改善策	
成果の方向性	〔理由〕
拡充	新型コロナウイルス感染拡大の影響で落ち込んだ入館者数の回復を図るため。
コスト投入の方向性	〔理由〕
現状維持	企画展開催に要する経費の節減に努めるため。
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	入館者へのアンケート調査を行い、入館者のニーズの把握に努める。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	新しい資料の収集、調査、展示を継続して実施する。

評価変更理由	成果の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「成果の方向性」「コスト投入の方向性」ともに1次評価のとおりとする。 ・コストは現状維持とするが実施回数を減らすなどして、事業の選択と集中を検討し、成果に繋げていくこと。あわせて資料館自体のPR手法を検討し直すこと。
	拡充	
	コスト投入の方向性	
	現状維持	